

木の香り漂う 待望の新校舎完成

住民の期待を乗せて、新時代へ船出――。

市立衣川中学校（早坂将校長、生徒数139人）の新校舎落成記念式典は1月16日、生徒や関係者ら約340人が出席して同校体育館で行われました。工事経過報告と用地提供者や工事関係者ら15人に感謝状の贈呈を行ったほか、生徒代表の決意表明などで新校舎完成を祝いさらなる飛躍を誓い合いました。

式典の中で、早坂校長は「校舎は単なる建物ではなく地域の願いが込められたもの。生徒たちの笑顔が増え、保護者が安心できる学校生活をおくり、他校の中学生が目標とするような学校にしたい」とあいさつ。

決意表明では、生徒会長の菅原洸佑君（2年）が「新校舎は香りがとても良く、すべてがバリアフリーの優しい造り。たくさんの方々の思いが詰まっていることを胸にとどめ、後輩たちに伝えながら、学習・部活動に精一杯取り組み、充実した

毎日を送っていききたい」と力強く述べました。

平成20年8月から工事を開始した「新」衣川中学校は、昨年12月に校舎が完成し、年明けの3学期開始とともに、本格的な使用が始まりました。

新校舎は鉄筋コンクリート3階建てで延べ床面積2319・76平方メートル。1階に職員室や会議室、相談室、2階に多目的室や理科室、3階に普通教室や図書室、美術室などが設けられています。壁材に多用した木材はすべて県内産で、その52%が市内産となっています。

総工費は10億663万5000円。昨年5月に完成した体育館とプールはすでに使用をはじめています。今後、22年・23年度に旧校舎の解体や技術棟の改修、グラウンド整備などを行い、全事業が完了します。



木のぬくもりが伝わる廊下



広くなった普通教室

interview

木のぬくもり、暖かさを感じる

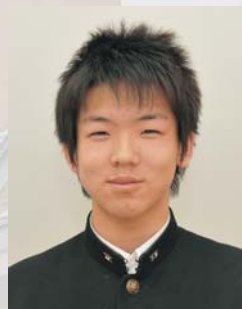
机 地 喜 久 子 さん＝衣川区古戸＝



新校舎に入り、まずは木のぬくもり、あたたかさを感じました。家庭的な雰囲気もあり、思った以上に良いですね。市内産の木材がたくさん使われているとのこと、子どもたちも大事に使ってくれるのではないのでしょうか。子どもたちは大木のように、まっすぐ育ってほしいと思います。新校舎の完成をきっかけに、行事などを通じて保護者や地域の人も学校を訪れてほしいですね。生徒数も増えていてもらいたいです。

待ちに待った校舎完成

衣川中3年 三浦 勝 君



理科室や美術室、音楽室ができたことが良かったです。みんなが待ちに待っていた新校舎完成。昼休みに体育館で遊ぶ人が増えるなど、積極的に使用しています。後輩たちには大事に使ってほしいです。

とても使いやすい新校舎

衣川中1年 高橋 優 香 さん



教室が広くなったことなど、とっても使いやすくなりました。建設中は早く入ってみたいと作業を眺めていましたが、予想以上に立派になりました。これからは、今まで以上に勉強や部活動を頑張りたいです。